

自己実現 2027

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

[第1回実力考査教科・科目別講評]

先日行われた実力考査について、各教科からの講評を掲載します。各教科の先生方が最近の入試傾向も参考にして、現在の時期に神戸高校生に身につけておいてもらいたい内容を吟味し、充分時間をかけてつくられた考査です。しっかり講評を読んで先生方からの熱いメッセージを受け取り、学力をつけてください。なお中間考査中の進路資料室の利用時間は15:40までです。

< 国語 >

① 現代文（評論・小説）

現代文では、評論・小説ともに本文理解そのものよりも、語句・文脈・設問条件の読み取りの甘さが大きな失点要因であった。評論では、外来語や抽象語を日本語的な意味・使い分けて正確に把握できていないこと、接続語の役割を機械的に覚えているだけで文脈に即して判断できていないことが目立った。小説では、登場人物の心情を直前・直後の描写や繰り返し表現されている内容から丁寧に整理できていないため、感情を読み違える答案が多かった。

〈課題点〉

- **語彙力不足**
外来語・漢字・やや古い語（給仕・納屋など）を感覚で処理している。
- **文脈把握の弱さ**
接続語・比喩・反復表現を手がかりに論理や感情の流れを追えていない。
- **設問条件の軽視**
字数・「誰の心情か」などの指定を読まずに解答している。
- **一般化不足**
主張説明で「計算」など具体例のまま終わり、抽象化できていない。

② 古文

古文では、文法知識（助動詞・敬語・品詞分解）の未定着が最も大きな問題であり、それが現代語訳・内容説明の不正確さにつながっている。文章内容についても、登場人物の整理ができておらず、「誰が何に対してどう感じているのか」など、主語や目的語を取り違える例が多かった。

〈課題点〉

- **助動詞の意味・識別の未習熟**
「る・らる」「らむ」「けん」などを文脈と接続から判断できていない。
- **品詞分解の弱さ**
逐語訳ができず、雰囲気での訳・意識に流れている。
- **敬語の基礎理解不足**
丁寧語と尊敬語・謙譲語の区別ができていない。
- **人物関係の混乱**
春宮（＝皇太子）など基本的な古典常識が曖昧。
- **抜き出しの不徹底**
指示通り本文をそのまま抜かず、言い換えて失点。

③ 漢文

漢文では、基本句形・語法・読みの知識不足が直接的な失点につながっている。文章の思想内容は比較的単純であるにもかかわらず、読み方や受身・使役の判断を誤り、正しく書き下せないため内容理解にも至らない例が多かった。記述問題では、「虎の類」の比喩を現代語で意味が通るように説明できていないものや、抽象的な表現を具体例に即して説明できていないものが目立った。

〈保護者の方々にも読んでいただきますよう〉

[自己実現 2027]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

課題点

- **基本句形の未定着**
受身（為人～）、使役、反語（何～哉）、部分否定（不必）などが不安定。
- **語の活用・連体形処理ミス**
「不能+者」など、後続語を考えた読みができていない。
- **和漢異義語の知識不足**
畜・故・力・智などを感覚で処理している。
- **内容の説明不足**
「虎の類」が何を意味するかを説明できていない。

現代文・古文・漢文すべてに共通する最大の課題は、言葉を正確に理解し、文脈に即して使い直す力である。知識が「覚えているだけ」で、読解・記述に接続できていない。今後は、① 語彙・文法の定着② 逐語的な読み③ 抽象化・言語化を意識した学習が不可欠である。

< 数学 >

【平均点】

《普通科文系》

① 23.93/50点 ② 6.00/35点 ③ 3.45/35点 ④ 5.85/40点 ⑤ 5.28/40点
合計 44.52/200点

《普通科理系》

① 27.70/50点 ② 7.94/30点 ③ 7.11/30点 ④ 7.63/30点 ⑤ 3.13/30点
⑥ 2.56/30点

合計 56.07/200点

《総合理学科》

① 33.32/50点 ② 15.87/30点 ③ 17.87/30点 ④ 18.32/30点 ⑤ 9.21/30点
⑥ 8.00/30点

合計 102.58/200点

※普通科理系と総合理学科は同じ内容の考査

※各問題の講評は配布済み解答冊子も参照のこと

① 春休みの課題の範囲から、共通テスト形式で「関数・統計」を出題した。多い情報量を素早く処理していくことが問われる。4STEP、チャートで基礎を培い、春休み課題を利用してこの手の問題形式にも慣れていく必要がある。

[1]では、「総挙上重量」という、馴染みのない言葉が出たが、問題文で定義された語句や式を限られた時間での確に処理をする力が必要だ。内容が理解しにくい場合は、実際に書き下して具体的に考えることが大切である。

[2]について、

数学B「統計的な推測」の分野は、共通テストでは選択問題だ。今回はこの分野の出題を予想しなかった生徒が多かったのか、面食らった人が多かったようだが出題されるパターンがある程度予測できるため、慣れれば高得点が期待される。この分野を学ぶことは、「データの分析」「確率と場合の数」を少し高い視点から理解することにも繋がる。文理問わず将来役に立つ統計学の素養として、教科書の内容に限っても腰を据えて勉強しておくことに損はない。

②(文系)

実際に手を動かして考えてほしい。数列や整数問題では $n=1, 2, 3, \dots$ のそれぞれの場合を逐次的に書き下して書くことができる。実際に書き下すことも必要だ。特に71を超えるタイミングは重要なポイントであり、とりわけ丁寧に確認したほうがよい。問題内容を理解せず適当な解法を思いついて数式だけで処理しようとするとう失敗しやすい。

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現2027]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

2 (理系)

自分で漸化式を作成して一般項を求める問題である。問題文の状況を図などで見やすく表現すると、ルールの理解を補助してくれる。隣接3項間の漸化式は必ず解けるように復習しておくこと。一般項を推測する方法もあるが、あくまで推測であるので数学的帰納法を用いた証明を付け足さねばならないが、これを忘れた人が多い。

3 (文理共通)

(1)は、2次式であることを証明する問題。「 $f(x) = px^2 + qx + r$ とおくと…」から始めると、では、1次の場合は？3次の場合は？などと他の次数について言及出来ていないことになる。最高次の項に着目して処理をしていくことが一般的である。(2)のように、積分区間に変数 x がある場合は、直接代入すると楽に処理できることが多い。あとは積分計算で、ここでの計算ミスは避けたい。検算をしながら確実に求値できるように練習をすること。

4 (文系)

1/12 公式がテーマの問題である。共通テストなどでは公式として用いてもよいが、記述試験では自分で導出することが本筋である。対称式を利用して計算を簡略化したい。積分計算のテクニックが得られるため、もう一度計算せよ。自力で最後まで解けるように必ず手を動かして復習をすること。

5 (文系)、4 (理系)

(1)で \tan の加法定理を忘れた場合、 \sin と \cos の加法定理から導出できるようにしておくこと。そもそも加法定理を間違えて覚えた人もいたが、ありえないことだ。数学の公式をうろ覚えしてそのまま使おうとすることは、なにか数学の学習の根本を間違えている。本質的に重要な公式を間違えずに覚え、いくつかの公式の導出方法を実地で練習しておくことは数学の力・計算力を高めるのに必要な力である。忘れたらすぐチャートを見て覚え直す、という勉強法は改めたほうがよい。

(2)の式では整理段階で間違える人がほとんどであった。解き方が合っても計算できなければ元も子もない。文字の種類が増えた際に、丁寧な答案作成が求められる。小さい字で乱雑に書かずに、見やすい整った答案を心がけてほしい。

5 (理系)

複素数平面はまだ演習が追いついていないようだが、理系でこの分野を放棄することはありえない。この分野の知識は大学進学後に大変重要な基礎となるのでしっかり取り組むこと。

複素数をすぐに $z = x + yi$ とおく人が多いが、このやり方は計算が複雑になることがほとんどだ。極力 z のまま処理できるようにになりたい。因数分解に気づくと(1)は楽に計算できる。変形のテクニックとして、自分のものに出来るよう再度練習しましょう。

6 (理系)

漸化式による数列の極限值を求める、単調減少列と、はさみうちの原理を用いる問題である。極限の問題としてしばしば出題される典型的なパターン問題なので、よく復習してほしい。(1)は無理方程式を解くときに、2乗する際、 α の条件に気づいていない答案が多くあった。同値変形でなくなるため、注意が必要である。また、本問については、多くの別解を用意しているので解答・解説をよく読むこと。(3)は「はさみうちの原理」を用いる。漸化式の特徴方程式を満たす値が極限値の候補になることは自明だが、そもそも収束することを示す過程が本質的である。不等式の評価をする練習としても価値が高いため、評価計算のプロセスをマスターしてほしい。

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現 2027] など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

＜英語＞

前は5題あった長文読解問題を今回は4題に減らし、「Levels 3」からの出題も1問のみにとどめ、残りは初見の英文を読む実力問題中心の構成とした。しかし、全体として点数帯に大きな変化は見られなかった。特に、課題考査で安定して得点していた生徒は、今回のような初見英文中心の問題でも同様に高得点を取っており、単なる暗記ではなく、英文構造や論理展開を読み取る実力が定着していることがうかがえた。【1】～【3】の長文は生物学系科学評論、認知科学系科学評論といった典型的な scientific argument の構造で展開されている。因果関係や仮説検証型の英文では、論旨を頭の中で整理しながら読み進める論理的速読力が必要となる。単語単位・文単位の和訳だけでは対応しにくく、「何が原因で、どの結論が導かれているのか」を段落ごとに把握する力が求められる。そのため、日頃から長文を読み、筆者の主張や論の流れを追う経験を積み重ねることが重要である。【4】は心理描写中心の小説文であり、感情や雰囲気暗示的に表現する箇所もあり、全体として抽象度の高い英文であった。具体的事実を追う科学評論型の記事とは異なり、難解だと感じた生徒も多かったと思われる。

文法・語法問題は、いずれも高校生として必ず身につけておくべき基本的・重要な事項を扱ったものであり、決して難易度が高いものではなかった。文法事項は、一度覚えたと思っても時間が経つと忘れてしまうことも多い。大切なのは、忘れてもくじけず、「覚える→忘れる→もう一度覚える」という反復を粘り強く続けることである。

また、英語は日々英文に触れることで自然に身につけていく定型表現も多い。長文読解や英作文に必要な力は、一朝一夕で完成するものではなく、毎日の積み重ねによって育っていく。特に和文英訳では、「自分の中に使える表現のパーツをどれだけ持っているか」が重要になる。英語表現を一つずつ増やし、繰り返し使う中で定着させていってほしい。

《平均点》 学年全体(200点満点) 平均点 73.0点 (得点率 36.5%)

普通科 69.3点 (得点率 34.7%) 総合理学科 106.6点 (得点率 53.3%)

No.1(長文) 110点満点 平均 42.0点 (普通科 39.6点 総合理学科 62.0点)

No.2(文法・和訳・英作) 90点満点 平均 31.0点 (普通科 29.7点 総合理学科 44.6点)

《大問別平均点》

大問	1	2～4	5	6	7	8/9	10	11	12
項目	課題 長文	実力 長文	文法 記号	正誤	並べ 替え	文法 記述	語彙	和訳	英訳
配点	30	80	15	8	10	24	4	15	15
全体平均点	11.4	10.2	6.3	3.4	5.2	3.4	2.3	3.5	3.6
正答率(%)	38.0	12.8	42.0	42.5	52.0	14.2	57.5	23.3	24.0
普通科平均点	11.0	9.5	6.1	3.2	5.0	3.3	2.2	3.2	3.4
正答率(%)	36.7	11.9	40.7	40.0	50.0	13.8	55.0	21.3	22.7
総合理学平均点	16.5	15.2	8.1	5.3	6.9	4.6	2.9	6.4	5.8
正答率(%)	55.0	10.0	54.0	66.2	69.0	19.2	72.5	42.7	38.7

＜保護者の方々にも読んでいただきますよう＞

【自己実現2027】など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

〈 理科 〉

物理基礎

力学2題，熱・波・電気分野から各1題，の5題出題した。

分量，形式，難易度は共通テストに準じた。

どの問も素直な問題で基本的である。

50点満点で8割にせまる39点が1名いたが，のきなみ5割以下の得点率で苦戦していた。

1年間の理科のブランクを考慮すると致し方ないともいえるが，塾や予備校の模擬試験である程度は物理基礎を自学している者も少なくないことを勘案すると，平均点が4割弱というのは楽観的な心境にはなれない。

このような現状を踏まえて，基本をおろそかにすることなく，着実かつ急ピッチで共通テストでの得点力を上げる学習および演習を行う必要がある。

平均点 全体：19.6点，2組：22.2点，3組：16.8点

物理

春季課題を踏まえ，力学2題，熱・波分野から各1題，出題した。

第1問は剛体の静止条件および剛体が滑る条件，傾く条件を問うた。図1から図3まで順に設定が複雑になっている。序盤の力のつりあい，力のモーメントのつりあい，最大摩擦力の扱いについては概ね理解できていた。

第2問は鉛直面内にある円形レール上の小球の運動について問うた。力学的エネルギー保存則は適用できているものの，小球が面から離れる条件を適切に考慮できておらず正答に至らぬ者が多かった。

第3問は球形モデルの気体分子運動論に関する設問で，最後の(8)のみ，やや応用的な内容を含んでいるが，それ以外は基本問題である。計算間違いや理解不足により誤答した者は，立方体モデルも併せて復習しておくように。

第4問は波の伝搬に関する設問である。反射，屈折，回折，干渉といった波動現象について，問題文を読み取り，解答する必要がある。何が問われているか分かれば，さほど難しくない内容であるが，全体的に正答率が低かった。物理現象に関する文章を読み，或いは，その類の話を聞き，数式を用いて物理的に思考する力も身に付けてほしい。

平均点 全体：39.6点，普通科：36.5点，総合理学科：57.2点

化学基礎

【講評】今回はマーク式ではありませんが，基礎的な問題を出題しています。共通テストでは「グラフの読み取り」「読解力要する問題」等が出題されます。以下の注意を要する問題を除いても40点あります。しっかり問題演習して思い出してください。

今回注意を要する問題は 1 (5)B, 4, 5 になります。

1 (5) 通常は， ^{35}Cl のように，質量数が示されていますが，原子量 $\text{Cl} = 35.5$ を同位体の質量数の平均として使います。

4 複雑な計算のように見えますが，モル濃度，質量パーセント濃度の公式で解きます。

$$\text{モル濃度}(\text{mol/L}) = \frac{\text{溶質 mol}}{\text{溶液 L}} \qquad \text{質量パーセント濃度} = \frac{\text{溶質 g}}{\text{溶液 g}} \times 100$$

この公式を使うには「溶質 mol」「溶液 L」「溶質 g」「溶液 g」をそれぞれ導いて公式に当てはめます。

〈保護者の方々にも読んでいただきますよう〉

[自己実現 2027] など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

- 5 二段階滴定は、セミナー化学基礎+化学「発展例題12」にあります。(1)は共洗い、(2)は指示薬の変色で、基本的な問題です。(3)は二段階滴定とみると難しく思えますが、なにをしているかを読み取ることができれば難しくありません。

化学

正解率[%]			◎ 70%以上
理系	総理	学年全体	○ 50%以上
			▼ 10%未満

普通科平均：42.9点
総理平均：59.3点
全体平均：45.3点

【1】	問1	72.4	89.2	74.9	◎
	問2a	55.1	70.3	57.4	○
	b	61.7	86.5	65.3	○
	c	85.9	83.8	85.7	◎
	問3	48.3	73.0	51.8	○
	問4	56.1	73.0	58.6	○
	問5	7.5	10.8	8.0	▼
	問6○	66.4	67.6	66.5	○
	②	29.5	56.8	33.5	
	③	57.5	78.4	60.6	○
	問7a	46.2	62.2	48.6	
	b	33.3	62.2	37.5	
c	51.8	54.1	52.2	○	
【2】	(1)ア	58.1	67.6	59.4	○
	イ	50.9	75.7	54.6	○
	ウ	46.9	73.0	50.6	○
	エ	47.4	73.0	51.0	○
	(2)	91.1	91.9	91.2	◎
	(3) i	23.4	29.7	24.3	
	ii	23.9	29.7	24.7	
	(4) 陸	40.0	51.4	41.8	
		45.6	59.5	47.8	
	陽	11.7	32.4	14.7	
		46.1	56.8	47.8	
	(5)	5.2	25.7	8.3	▼
(6)	48.5	67.6	51.4	○	
【3】	(1)ア	98.6	100.0	98.8	◎
	イ	95.3	100.0	96.0	◎
	(3) i	26.1	64.2	31.9	
	ii	14.3	44.6	18.8	
	ii	7.0	43.2	12.4	
【4】	(1)ア	39.6	59.5	42.6	
	イ	46.9	24.3	43.4	
	ウ	85.8	97.3	87.6	◎
	エ	84.4	97.3	86.5	◎
	オ	80.4	91.9	82.1	◎
	ク	27.1	54.1	31.1	
	(2)カ	10.7	29.7	13.5	
	キ	39.6	75.7	45.0	
	(3)	53.2	70.3	55.8	○
	(4)	1.4	10.1	2.7	▼

《講評》

大問【1】は番号選択式の共通テスト形式で配点30点、大問【2】～【4】は二次試験の記述形式で配点70点であった。新課程になり共通テストにも思考力を必要とする発展応用問題が出題され、共通テストと二次試験の垣根がなくなってきているので、二次試験を受けない生徒も発展問題に対応できるようにすることが必要です。今回の問題の設定は基本～標準的なレベル(入試レベルから見れば)がほとんどですから、間違った箇所やできなかった箇所は解説を使ってきちんと復習をしてください。日頃の学習の取り組みの成果が表れているといえる6割の得点が取れている生徒もいますので、出遅れている人は夏休みに入るまでに1、2年の範囲の復習もして、早めに追い付いていきましょう。3年の授業も(特に重要な有機化学の範囲を)ハイペースで進むので、基本問題集(セミナー)とともにマーク式問題集(チェック&演習化学)を週末ごとに解き終え、二次対策として重要問題集も自分で計画的に解き進めて下さい。化学は科目の特性としてある程度の知識が要求されます。教科書の内容をしっかりと覚えることが重要です。次の8月の共通テスト模試では75点を目標にしてしっかり演習を進めてください。また、時間不足になった人は普段から時間を意識して問題を解くことで(計算も含めて)スピードをアップさせましょう。

実力考査では、授業内では時間的に扱えない、しかし、入試ではよく出題される事項や是非一度は解いておきたい発展問題などを精選して出題しています。記憶の新しいうちに、今回の実考の解き直しも必ずやっておいてください。

〈保護者の方々にも読んでいただきますよう〉

〔自己実現2027〕など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

生物基礎 (受験者 83 名 平均 17.7 点 最高 34 点 50 点満点)

1 年次に学習した授業内容の復習がまだできておらず、平均点は4割に満たない。生物用語を正確に理解しておけば、まず6割程度は得点できる問題であろう。特に、I (マイクロメーター) の計算問題は定番で、確実に解けるようにしておきたい。また、II (左室内圧と容積)・(インスリン濃度の変化) のグラフやII (臓器と血液の流路) の思考力を伴う図表の読み取りは共通テスト対策として欠かせない。文系の諸君にとって生物基礎の学習に費やせる時間は多くないはずだ。とにかく今後の授業を大切にしてほしい。1 学期は教科書の内容を復習しながら基礎力を積み重ね、2 学期は問題演習を通じて応用力を養成する。さらに、今後行われる考査や模試の問題は必ずやり直し、わからないところは質問に来ること。一緒に頑張っていこう！

生物

総評 I, II, IIIは生物基礎の内容をベースに生物での学習内容が合わさった問題で、基礎の内容が欠けたものは苦戦したと思われる。平均点等は個票参照

I 恒常性の維持から自律神経と内分泌腺に関する問題

2 題の字数制限のある記述問題について：字数制限のある場合の論述の仕方を授業中に解説しました。どのような書き方で、字数を削るか。解説時のメモを確認しておき、普段から心がける。問8は、高血糖が続くのか、感受性が低いだけで不足、指定語句「グルコース」を使って血液中のグルコースが細胞に取り込まれると血糖濃度が下がる。下がらないのはその逆を答える。

II バイオームと階層構造に関する問題

基礎の範囲が中心の問題。問3の論述は人工林である理由を述べよう。消去法の説明では高得点は望めない。グラフから何が読み取れるのかを授業で解説した。

III 代謝 (光合成) に関する問題

問2カルビン回路の物質の移り変わりや分子数の理解が不足している。どのようにして物質と分子数を結びつけるか授業で詳しく解説した。問3実験結果のグラフの解析、実験の内容とグラフの表示、表の内容のリンクができたか。複数のデータのリンクに慣れよう。

IV 細胞とタンパク質

問1, 2 基礎の免疫の内容に生物の免疫に関するタンパク分子の内容が合わさった問題。抗原提示する細胞、される細胞については授業中に解説した内容を忘れるな。抗原提示の分子は何かの整理も怠るな。問3以降は、バソプレシンの作用機序と細胞膜上の輸送タンパク質と問題でこれも基礎と生物の内容が混ざった問題。問4の論述では基礎のバソプレシンの作用が掴めてないと解答できない。問7の論述では、AQP2の遺伝子発現とあらかじめAQP2を含む小胞がある場合の比較を行い論述する問題であるが、他の輸送タンパク質でも応用可能な問である。

< 地歴 >

世界史探究

平均 39.8 点 最高点 : 88 点 最低点 : 9 点

1 出題内容

2 年生で学習した古代～ティムール朝までの範囲から、春休みの課題を基に出題。

2 講評

① キリスト教史

- ・政治史に関する部分、ローマ共和政時代の重要人物について理解度が低い。
- ・キリスト教については、公会議と宗教会議も複数でてくるので、こちらも整理が必要。

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現 2027] など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

- ② ギリシア・ローマ文化
 - ・今回の考査のなかでは論述を除き最も難易度が高い出題だった。すべて選択問題だが、文化史であることもあって正答率が低い。資料集も頻繁に利用して積み重ねをしてほしい。
- ③ 中国の官吏登用法
 - ・基礎事項は概ねよく定着している。
 - ・選択問題では、歴史の流れを理解しているかがポイントであったが、残念ながらいま一つ。授業ノートや資料集を活用してほしい。
- ④ イスラーム世界
 - ・王朝や人物が複雑な展開を見せる単元だが、おおよその年代や歴史地図について、今一度復習してほしい。また、山川の教科書は注釈や地図資料に重要事項が含まれる場合があるので丹念に読み込んでおこう。
- ⑤ イベリア半島史
 - ・3以上に難易度が低く基礎事項だらけだが、正答率が低い箇所が散見される。重要語句は「記憶する」以上に「理解する」ことを意識して復習してほしい。
- ⑥ ビザンツ帝国史
 - ・用語の記述に関しては、民族・王朝などが多数でくる単元だが、ヨコの関係を意識して多角的に理解しておこう。
 - ・論述問題は、問で求められている事柄を理解して取り組むようにしよう。また、特に明示されていなくても、関連する用語を適切に使用するように心がけること。
- ⑦ 宋・モンゴル史
 - ・この単元も基礎事項の取りこぼしが目立つので、今後の努力に期待する。

日本史探究

1 出題内容

2年生で学習した原始～江戸時代初期までの範囲から出題。

2 分析

- ・平均点…31.7点
点数はもとより、基本的な問題の正答率も高くないものが多いです。まだ弱点や課題を分析する段階ではありません。
- ・正答率が高かったのは選択問題です。共通テストに多く見られる正誤問題も、基本的な事項を問う問題は正答率が高くなっています。他方で、記述問題については、基本的な用語を問う問題においても、正答率は低いものが多いです。
- ・【3】「平安時代の文化」については、選択問題が多かったからか、比較的よく得点できていました。

3 今後の学習について

- ・まず、基本的な用語・事項の復習、暗記から始めましょう。授業の内容をきちんと理解し、教科書レベル(＝共通テストレベル)の用語を確実に答えられるように。学校で購入した『チェック&リスト』、『ゼミナール日本史』は最高の基本問題集です。これらの問題集の中で問われている事項を、すべて確実に正解できるように。それが「受験日本史の第一歩(基礎・基本)」です。基礎・基本の定着度合いが、その後の本格的な問題演習(正誤問題、論述問題など)に必ず生きてきます。
- ・授業では、近現代史(ペリー来航以降)に入っていきます。より歴史の流れを理解することが重要になってきます。流れ・背景の理解を意識して、受講しましょう。

〈保護者の方々にも読んでいただきますよう〉

【自己実現2027】など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。